令和７年度　園　評　価　　大垣市立荒崎こども園

【園の教育目標】

心豊かにたくましく生きる子

・じょうぶな子
・なかよく遊ぶ子
・よく考える子

【令和6年度の園評価より】

〇1日1回は、全身を使った遊びを取り入れ、自ら体を十分に動かそうとする意欲を育てる。年齢、発達に合わせた体づくりを年間を通し行う。

〇異年齢交流や小学校交流を取り入れ、様々な活動を通して、お互いを思いやる心や憧れを持つ心を育む。

4段階評価　〇保育者　☆関係者　●課題

観点		短期目標	自己評価	保護者評価	評価及び意見の概要
保育・幼児教育の充実	健康な体つくり	【じょうぶな子】 保育者や友達と一緒に思いきり体を動かして遊ぶことを楽しむ。	3.7	3.7	〇天気の良い日は、戸外で発達に合った遊具遊びやルールのある遊びを取り入れ、楽しく体を動かせるようにした。また、室内でも体操・リトミック・サーキットなどの活動を設け、一日一回は体をしっかり動かす機会をつくることができた。 〇体を動かすことが苦手な子は、保育者も一緒に遊び手本となることで、「やってみたい」という意欲に繋げられるようにしていった。 ☆基本的にどの子も体を動かすことが好きなことは伺えるが、得意・不得意はある。活動内容や方法等工夫しようとされている点も共感できるが、優れている子には「すごいね！」ではなく、「この点がいいね」と具体的にポイントを分かりやすく伝えることが、本人にとっても、周りの子にとっても納得のできる評価となり、結果として高め合う集団作りに繋がると考える。 ●体を動かす意欲は高まっているが、今後は個々の得意・不得意をより丁寧に捉え、活動内容や環境構成を工夫していく。
	社会的発達	【なかよく遊ぶ子】 自分の気持ちの調整をし、友達や異年齢児と遊ぶことを楽しむ。	3.5	3.6	〇トラブルがあった時は、保育者が子どもの思いを一人一人から丁寧に聞き取り、それぞれの思いを代弁して仲介に入ることでお互いの気持ちを意識し、折り合いをつけながら一緒に遊ぶ姿が見られた。トラブルの際どうするとよいか、話し合える機会をクラス全体の中でも取り入れ、みんなで考えられる機会を設けることができた。 ☆園の中では挨拶がしっかりできているが、それが一歩外部へ出ると言えなくなってしまう子が増えていることを感じる。家庭教育学級の課題としてチャレンジしていただけると有難いと願う。 ☆小学校や、異年齢児との交流が多く取り入れられていた一年だった。異年齢交流で体験した憧れや思いやり等は、今後の子ども自身の夢にも繋がると感じ、これからも実施を継続して欲しい。 ●単発的な異年齢交流が多かったため、異年齢交流を継続的に取り入れられるよう年間計画に入れ計画的に交流を行い、憧れの気持ちや、思いやりの気持ちがさらに育まれるようにしていく。
	精神的発達	【よく考える子】 自分の好きな遊びを見つけ、工夫したり試したりして継続して遊ぶ。	3.2	3.6	〇子どもたちの声や姿から興味関心のあることを探り、遊びを設定したことで、自ら主体的に遊ぶ姿が見られた。 〇個々の好きな遊びを十分に行う時間と継続できる環境構成の徹底に努めた。 ☆いつ園を訪れても子どもたちが自由に製作遊びをした作品があり、いつ観ても素晴らしい。その作品は画一化されておらず、子どもの良さが表現されているところも素晴らしい。 ☆遊びの中で工夫する力は、大人になって必要とされる力のひとつ。その経験をできる環境づくりはなかなか難しいかもしれないが、子どもたちが沢山の工夫できる場面に出会えることを願う。 ●子どもたちが自分で考え、試したり失敗したりできるような遊びを意図的に取り入れ、より多くの経験ができるよう、遊びの内容や支援の方法を工夫していく。
子育て支援の充実	保護者や地域との連携	家庭と連携して規則正しい生活リズムを身に付ける。	3.5	3.5	〇生活リズムカードを通し、早寝・早起き・朝ごはん等の生活習慣を親子で見直す機会を設けたり、園だよりで家庭での過ごし方を知らせたりすることで、保護者に生活リズムの大切さを伝えるようにしていった。 〇送迎時や懇談時に、園での様子や育ちについて話したり、保護者の相談や悩み事を一緒に考えたりしていくことで、家庭と連携しながら子どもの成長を支えることができた。 ☆園から配られる園だよりやお便りは、内容も充実していると感心している。しかし、近年少子化、核家族化、共働き家庭が増加し、子育て経験に乏しい保護者も増えている。この程度はわかるであろうという考えではなく、より具体的に情報を提供することが必要である。 ☆生活リズムカードを通して早寝早起きやメディアの時間を、子どもと意識して見直せるため今後も継続してほしい。保護者は送迎時に園での様子を教えてもらえ、有難く思っている。 ●家庭環境により生活リズムが安定しにくい子もあり、今後もより丁寧に個別で対応していく必要がある。
保育・幼児教育を支える基盤の強化	危機管理	命を守るためにすべきことがわかりしようとする。	3.6	3.6	〇災害時どのように命を守ると良いか日々の保育や訓練の中で繰り返し伝えることで、訓練の際、子どもが自分で考えて行動し取り組む姿が見られた。 〇各種マニュアルをもとに訓練を実施し職員間で共通理解や振り返りをすることで、緊急時にも落ち着いて行動する意識が高まった。 ☆定期的に「安全指導日」「命を守る訓練」を実施できている。指導について、より多くの外部講師（消防組合、警察署等）を招き、より一層、関心意欲を高められるとよい。 ●不審者対応の訓練で、小学校園舎は通路が外に開放されている環境のため、特に対応をしっかり身に付ける必要がある。 ●園での災害時の避難の仕方、取り組み、避難場所や小学校との連携について、再度保護者へ知らせていき、園児、保護者、保育者の共通理解のもと、災害時に園児がどのように避難しているか保護者がイメージできる体制を作る。

【次年度に向けて】

・年齢、発達に合わせた運動遊びを１日１回取り入れる。また、園外保育の年間計画を立て、たくさん歩くことを通して体づくりに繋げる。

・小学校との交流だけでなく、園内の異年齢交流においても年間計画を作成し、継続的に異年齢交流を行うことで、憧れやお互いを思いやる気持ちを育む。